

特集にあたって

岡太 彬訓 (立教大学)

平成 11 年度から 13 年度まで 3 年間継続して設置されたマーケティング・エンジニアリング研究部会では、毎年度部会が提供したデータを分析して、分析の内容や結果の良さを競うデータ解析コンペティションを実施してきた。前身の部会（マーケティング・サイエンス研究部会、マーケティング・モデル研究部会）から通算して 8 回目となる平成 13 年度のコンペティションでは、「小売業における CRM」をテーマとして、ID 付 POS データを解析した。

提供したデータの概要は、以下の通りである。

- (1) データの種類：あるスーパーマーケットのポイント・カード会員の 1 店舗における購買履歴（1 ヶ月あたり約 50 万レコード）
- (2) データの収集期間：2000 年 4 月 21 日～10 月 20 日の 6 ヶ月間
- (3) データの項目：顧客番号、顧客属性（年齢、性別、住所）、購買履歴（購入年月日、商品カテゴリ大分類、商品カテゴリ小分類、商品名、購入金額、購入数）

平成 13 年度のデータ解析コンペティションには、OR 学会マーケティング・エンジニアリング研究部会からだけでなく、日本マーケティング・サイエンス学会、立教大学 CRM 研究会からもチームが参加し、合計で 23 チームが参加した。2001 年 10 月から 12 月に、4 回にわたりマーケティング・エンジニアリング研究部会からの 17 チームによる中間発表を行い、また 2002 年 1 月から 3 月に、4 回にわたり日本マーケティング・サイエンス学会、立教大学 CRM 研究会からの参加チームも含めて、22 チームによる最終報告会を開催した。前年度の参加チーム数の 16 に比べて、マーケティング・サイエンス学会、立教大学 CRM 研究会からの参加チームの分だけ、今年度の参加チーム数が増えたことになる。

各チームの最終報告会での研究報告に基づいて、最優秀と判定された 5 チームを選抜し、2002 年 3 月 18 日に、研究成果報告会を開催した（日本 OR 学会マーケティング・エンジニアリング研究部会、日本マーケ

ティング・サイエンス学会 ID 付 POS データ活用部会、株式会社日立製作所[株式会社生活気象研究所]、株式会社 NTT データ開発本部システム科学研究所の共催）。研究成果報告会の開催は、平成 11 年度からである。研究成果報告会では、審査の結果（審査委員長：成蹊大学工学部教授上田徹氏[OR 学会誌編集委員長]）、優勝は「あかぎ」チーム（代表者：群馬大学関庸一氏）、準優勝は「大阪府立大学経営科学」チーム（代表者：大阪府立大学荒木長照氏）となった。本特集を構成する 5 編の論文は、研究成果報告会における 5 件の研究報告をもとにしたものである。

今回の特集では、投稿された 5 編の投稿を査読にかけた。本特集の査読のために査読委員会（委員長：岡太彬訓）を構成し、各投稿について 2 名の査読者による審査を行った。最終的には、関氏、荒木・石垣・森田 3 氏、飯塚・米村・豊田 3 氏、中山氏の 4 編の論文が査読の結果、採択され、査読付論文となった。古荘・出井・庄司 3 氏の論文は時間的な制約等から採択には至らなかったが、非常に興味深い話題であり、今後の更なる検討、議論を期待して特集記事の一つとして加えさせていただいた。査読者の皆様には、お忙しいにもかかわらず、迅速に投稿を査読して頂き、建設的かつ有益なご助言を頂いた、心よりお礼を申し上げる次第である。

平成 14 年度は、マーケティング・データ解析研究部会（主査：中央大学教授田口東氏）として、「流通 CRM」をテーマに百貨店の会員カード・データを用いてデータ解析コンペティションを行っている。データ解析コンペティションへの参加申込はすでに締め切ったが、現在は中間報告を行っており、1 月からは最終報告会を開催する予定である。ご興味のある向きは是非とも参加されたい。

謝辞 部会最終報告会および成果報告会の審査員の方々には、長時間にわたり審査にあたって頂きました。ここに記して、深甚なる御礼を申し上げます。